

財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

理事長 住 野 勇 殿

2008 年度 在宅医療助成(指定公募) 報告書原稿

テーマ	2009 年プライマリ・ケア関連学会連合学術会議 市民公開講座 家庭医による在宅医療
-----	--

申 請 者	氏名	前沢 政次
	所属機関	北海道大学大学院医学研究科医療システム学
	所属機関所在地	北海道札幌市北区北15条西7丁目
	提出年月日	平成 21 年 10 月 27 日

1. 開催スケジュール

日 時	平成 21 年 8 月 23 日 (日) 午後 2 時 ~ 4 時
場 所	京都私学会館 大会議室 (B 1 F) 〒600-8424 京都市下京区室町通高辻上る山王町 5 6 1
参加費	無料
プログラム	司会：関 透 (以下敬称略) 関医院院長 日本プライマリ・ケア学会評議員
	演題 1：在宅での認知症ケア 八藤 英典 医療法人 北海道家庭医療学センター理事 初期研修医・学生部門部長 本輪西ファミリークリニック院長代行
	演題 2：在宅での看取り - 特に緩和ホスピスケア - 鈴木 荘一 鈴木内科医院院長 日本プライマリ・ケア学会元副会長

2. 開催目的

高齢者化社会が進む今、高齢者自身とその家族が抱える「在宅ケアへの不安」や、時に家族がうろたえてしまうような「心身の変化」について、病院での本人の診療や治療ばかりでなく、家族全体と接する家庭医の視点から、高齢者とその家族がどのようにすれば安心して暮らすことができるのか、専門家の医師にわかりやすく解説してもらうことを目的とした。

3. 開催準備から当日の状況と分析

開催準備

日本プライマリ・ケア学会と日本家庭医療学会、日本総合診療医学会の3学会は、合同開催する2009年プライマリ・ケア関連学会連合学術会議において市民公開講座を併催することとし、そのテーマを「家庭医による在宅医療」とした。

その目的は上記開催目的にある通りである。

個別の演題については学術会議開催実行委員会において選任した講師にテーマを伝え、内容は講師の意向に一任する事とした。

市民への周知はカラー A 4 版の別添資料にある通り作成し、京都新聞に掲載した。

当日の状況と分析（感想を兼ねる）

参加者は 30 名余りであり、やや少数であった。

このことは、テーマは「家庭医による在宅医療」という幅広いものであったが、演題が「認知症」と「在宅での看取り」であるため、その両者に関わる悩みや疑問を抱えた市民に対しては大きな関心を持って貰えたと考えられるが、逆に、家族が該当する状況に無い、あるいは本人の状態がまだ軽度であると家族が判断していた場合などは、参加を促すには至らなかった可能性もあると考えられる。

しかしながら、参加した人々は現在その悩みや疑問の渦中にあり、今どのように対処したら良いのか、そして今後はどういう状況が予想されるのについて大きな関心があり、講師の説明と質疑応答により幾つかの疑問点の解決がなされ、その結果、参加者本人の不安感の減少と、今後予想される状況への心構えについてなど、参加者にとっては有意義な結果が得られたと考えられる。

このことから、在宅医療をテーマに市民向けの講座を開催する場合は、医療者側からの情報や対処方法を一方的に提供するばかりではなく、本人のみならず、家族を含めた市民の関心が何処にあるのか、医療の現場からの情報と、本人を含めた家族（家庭）からの情報においてその分析を行い、市民にとってより良い成果が得られるよう更なる研鑽を行うべきであると考えられる。

以上

付記

今回の市民公開講座は、財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により開催されましたことを付記いたします。

2009年プライマリ・ケア関連学会連合学術会議

市民公開講座 家庭医による 在宅医療



入場無料
先着200名

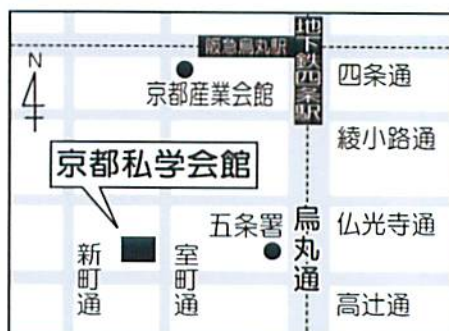
高齢者化社会が進む今、高齢者自身とその家族が抱える「在宅ケアへの不安」や、時に家族がうろたえてしまうような「心身の変化」について、病院での本人の診療や治療ばかりでなく、家族全体と接する家庭医の視点から、高齢者とその家族がどのようにすれば安心して暮らすことができるのか、専門家の医師にわかりやすく解説してもらいます。

とき

平成21年
8月23日(日)
午後2時から4時

ところ

**京都私学会館
大会議室(B1F)**
下京区室町通高辻上ル山王町



駐車場はございませんので一般の交通機関をご利用ください。

受付開始:午後1時からB1Fロビーにて

司会●関 透氏 関医院院長 日本プライマリ・ケア学会評議員

演題1

在宅での認知症ケア

八藤 英典氏 医療法人 北海道家庭医療学センター理事 初期研修医・学生部門部長
本輪西ファミリークリニック院長代行

演題2

在宅での看取りー特に緩和ホスピスケアー

鈴木 莊一氏 鈴木内科医院院長
日本プライマリ・ケア学会元副会長

問合せ先:日本プライマリ・ケア学会事務局 ☎03-5281-9781
共 催:財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団